

# 外国人留学生の就職や採用後の活躍に向けた 取組の促進について

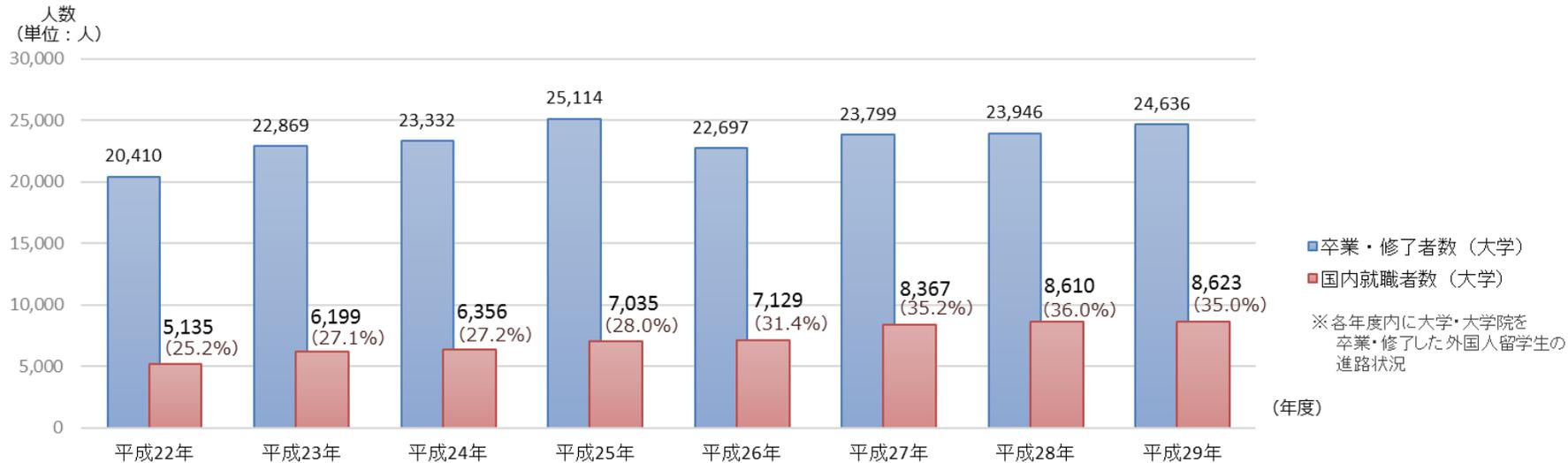
令和元年8月

外国人留学生の就職や採用後の活躍に向けたプロジェクトチーム事務局

# 1. 留学生の就職に係る現状

- 平成28年6月の「日本再興戦略」において留学生の日本国内での就職率を現状の3割から5割に向上させることを目指すこととされたが、実際の就職率は4割弱にとどまっており、抜本的な対策が必要な状況。

## ○大学（学部・院）段階における外国人留学生の卒業・修了及び国内就職の推移



(出典)「平成29年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」  
(平成31年4月(独)日本学生支援機構)

## ○大学（学部・院）を卒業・修了した外国人留学生の進路状況

平成29年度に大学（学部・院）を卒業・修了した者（24,636人）のうち、国内に就職した者は8,623人（約35%）。

(出典)「平成29年度外国人留学生進路状況・学位授与状況調査結果」  
(平成31年4月(独)日本学生支援機構)

## ○外国人留学生の就職支援に関する政府の方向性

「日本再興戦略改訂2016」（平成28年6月2日）において、外国人留学生の日本国内での就職率を3割から5割へ向上させることを閣議決定。

## ○日本における就職を希望する外国人留学生の状況

日本における就職を希望する外国人留学生は全体の約65%を占める。

(出典)「平成29年度私費外国人留学生生活実態調査」  
(平成31年1月(独)日本学生支援機構)

出典：文科省作成資料より抜粋

## 2. 総合的対応策における取組

- 「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策（平成30年12月25日）」、「成長戦略フォローアップ（令和元年6月21日閣議決定）」、及び「骨太方針2019（令和元年6月21日閣議決定）」等において、留学生の就職に係る支援策が盛り込まれたところ。

### 総合的対応策／成長戦略フォローアップ（抜粋）

留学生の採用時に高い日本語能力（例えば、日本語能力試験N1相当以上）を求める企業もみられるが、業務に必要な日本語能力のレベルは企業ごとに様々であり、採用時に求める日本語能力水準には多様性があること等を踏まえ、その多様性に応じた採用プロセス及び採用後の待遇の多様化を推進する。そのため、関係省庁、産業界、就職支援事業者、大学等が連携し、採用後の多様な人材育成・待遇等のベストプラクティスを構築し横展開する。

また、先進的な留学生向けの取組を行っている企業や大学等からの情報発信を促すため、関係省庁からの周知を徹底していく。

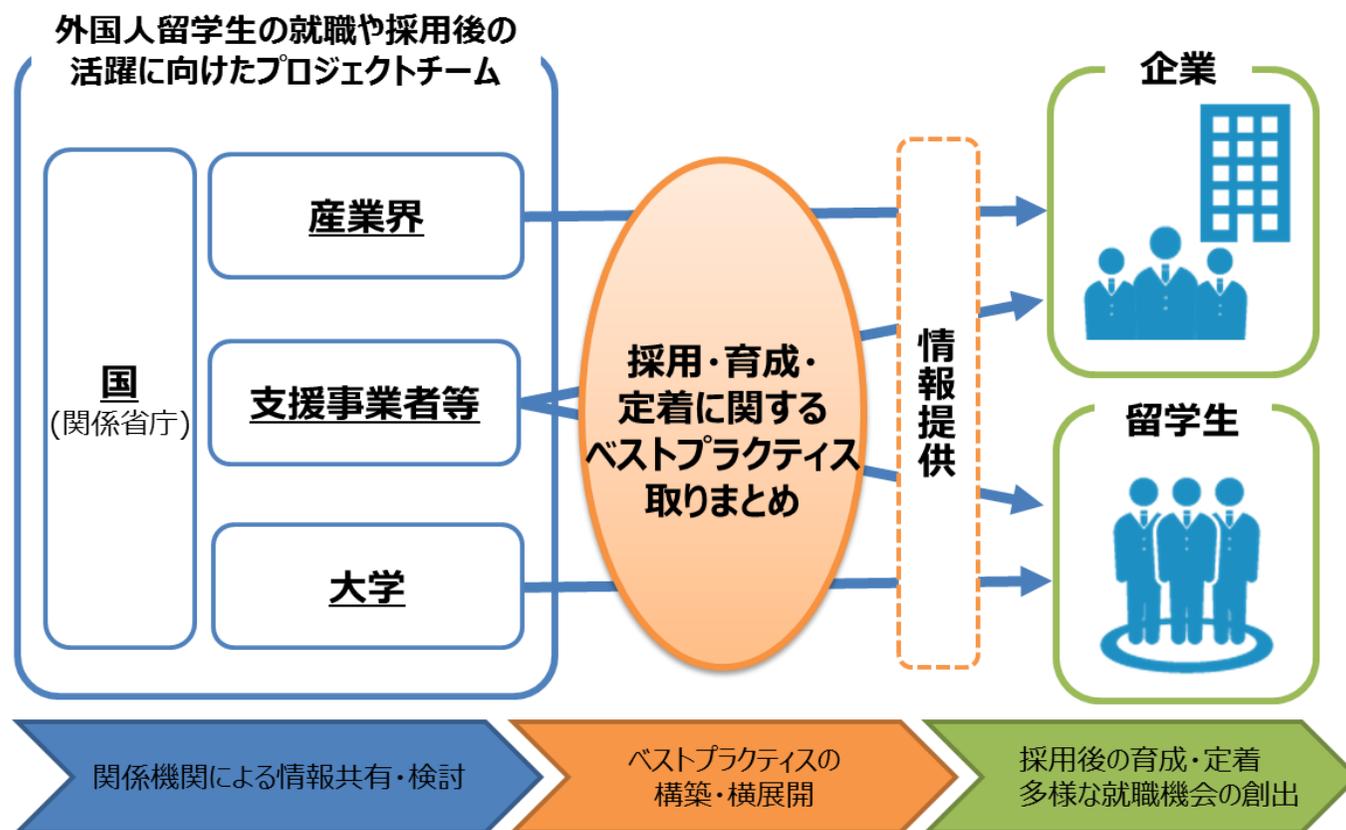
### 骨太方針2019（抜粋）

留学生の多様性に応じた採用プロセス及び採用後の待遇の多様化を推進するため、産官学連携によりベストプラクティスを構築し横展開する。これらの取組により、希望する留学生の大多数が国内で就職できる状況の実現を目指す。

### 3. 本プロジェクトチームの目的・体制

- 関係省庁、産業界、支援事業者等、大学等が連携し、企業における留学生の採用及び採用後の育成・待遇の多様化を推進することを目的とし、本プロジェクトチーム（PT）を設置する。

プロジェクトチームの体制図



※経済産業省「令和元年度産業経済研究委託事業（外国人留学生の国内就職促進に係る調査）」をEY新日本有限責任監査法人が受託し、本プロジェクトチーム事務局の運営・調査を実施

## 4. 本プロジェクトチームのアウトプット

- PTの検討及び企業ヒアリング等を通じ、企業等が確認すべき事項をまとめたチェックリストとそれに連動したマニュアル・ベストプラクティス集等を作成。
- 政府機関・大学・自治体等、関係機関のTo doについても整理。関係機関の協力・連携を図り、実践を促す。

### ベストプラクティスの構築・横展開に向けたアウトプットの方向性

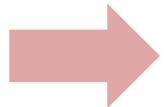
#### 企業等における 取組

- ✓ 企業が確認すべき事項をまとめたチェックリスト
- ✓ (チェックリストに紐付いた) 企業の運用マニュアル
- ✓ (チェックリストに紐付いた) 企業等のベストプラクティス集



#### 関係機関等における 取組

- ✓ 政府機関・大学・自治体等、関係機関のTo do整理

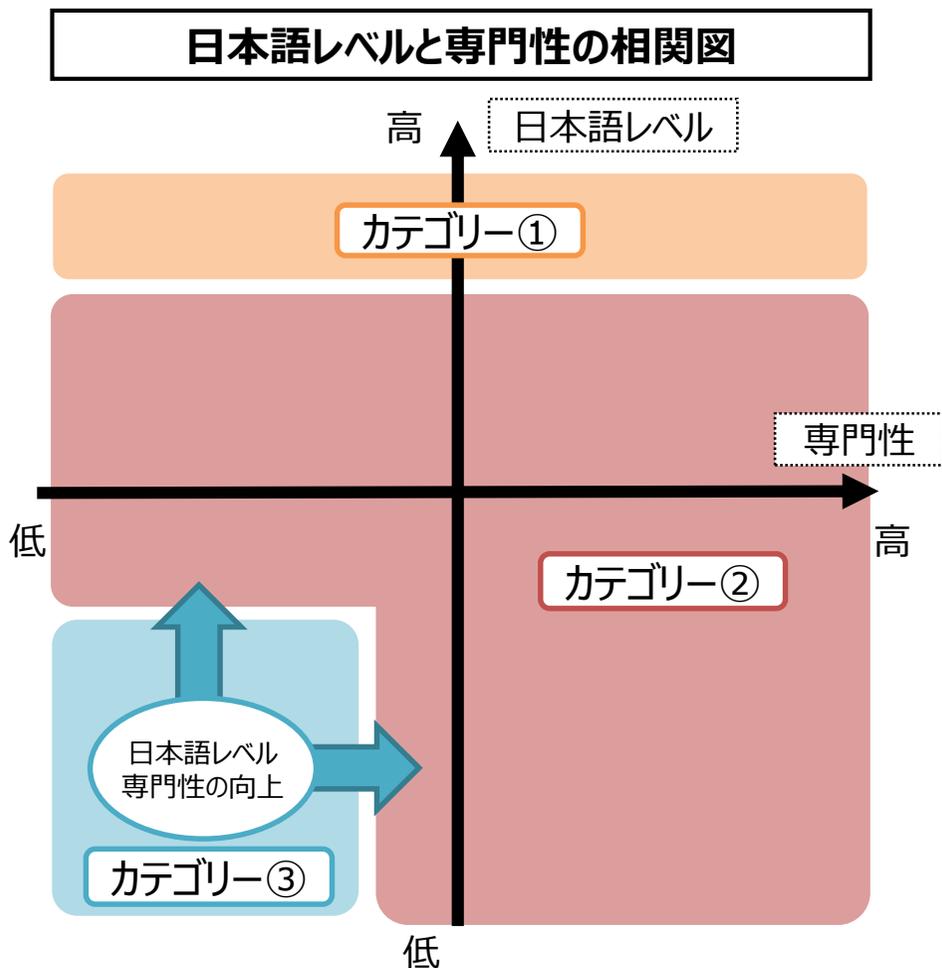


- ✓ PTでの検討内容を踏まえた提言・報告書の取りまとめ
- ✓ 関係機関等の協力・連携を図り、上記取組の実践促進

## 5. ターゲットの整理

- 留学生の国内就職の促進等を図るため、企業で求められる日本語能力水準には多様性等があることを踏まえ、採用や採用後の育成・処遇の多様化について検討を行う。
- 今回のPTでは、特に「**カテゴリー②**」の層を中心とした検討を行う。

日本語レベルと専門性の相関図



### カテゴリー①

日本語レベル  
or/and 専門性  
高い

(想定される者)

- ✓ 日本語レベル・専門性ともに高い
- ✓ 日本語能力がネイティブレベル 等

### カテゴリー②

日本語レベル  
or/and 専門性  
一定レベル以上

(想定される者)

- ✓ 理系大学院で英語のみで研究を行っている
- ✓ グローバルコース等で日本語を使わない
- ✓ 現地大学卒後、日本の専門学校等へ学んでいる 等

### カテゴリー③

日本語レベル  
or/and 専門性  
低い

(想定される者)

- ✓ 日本語レベル・専門性ともに低い 等

## 6. 各回アジェンダ（案）

- 現時点での各回のアジェンダは以下を予定（検討状況により変更あり）。
- 月1回程度開催し、年末を目途に取りまとめを行う。

日程	アジェンダ
第1回 (8月8日13時-15時)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. PT立ち上げ趣旨・目的説明等（事務局）</li><li>2. 留学生等の国内就職における現状・取組について（文科省・厚労省・経産省）</li><li>3. 日本語教育を通じた外国人材の定着支援について（浅海委員）</li><li>4. 企業ヒアリング調査項目の検討（事務局）</li></ol>
第2回 (8月26日10時-12時)	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 留学生等の採用・定着における現状・課題（1）</li><li>2. ヒアリング企業・事例収集方法等の検討（事務局）</li></ol>
第3回	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 留学生等の採用・定着における現状・課題（2）</li></ol>
第4回	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 企業ヒアリングの中間報告</li><li>2. 地域内連携による留学生の就職支援に係る取組</li></ol>
第5回	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 企業ヒアリングの結果報告</li><li>2. ベストプラクティス集及びチェックリスト等の取りまとめ及び周知に向けた検討</li></ol>
第6回※予備日	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 最終とりまとめ（P）</li></ol>